

2017年度就職先へのインタビュー調査結果

本学卒業生の主要な就職先である10法人（企業分野5法人、医療・福祉分野5法人）に対して、「学修到達レポート」（学生ごとの学修成果と到達度を提示する書類）のサンプルを示し、以下の4点についてインタビューしました。

- ①採用側として、新卒学生一般に対して一番求める資質
- ②勤務に際して、本学出身学生に何か特段の傾向があるか。（積極的評価、否定的評価）
- ③就職活動で学生が「学修到達レポート」を提出した場合、採用活動時に参考にするか。
- ④この学修到達レポートに盛り込んだほうがよい項目、内容があるか。

以下にその結果について報告します。

No.	インタビュー先	採用側として、新卒学生一般に対して一番求める資質	勤務に際して、本学出身学生に何か特段の傾向があるか。（積極的評価、否定的評価）	就職活動で学生が「学修到達レポート」を提出した場合、採用活動時に参考にするか。	この学修到達レポートに盛り込んだほうがよい項目、内容があるか。
1	医療法人	積極性・主体性。 施設見学や説明会等で自ら発言したり、行動したりできるかを注目している。つまり、積極性・主体性を最も重視している。人柄重視で人と接することが好きな人を求めている。また、受身にならず積極的に自ら行動できる人、臨機応変に対応できる人がよい。	当施設に勤務している卒業生に関しては、まじめで主体的に行動できる印象が強い。卒業生の中には、室長クラスの役職者（入社7～8年）もいる。	大変参考になる。面接において確認できる項目が増えるため。	具体的な項目内容に関しては思い浮かばないが、対人に関する経験・能力が確認できるような項目を増やしてほしい。
2		コミュニケーション力。 急性期病院のため、できるだけ早く退院の目途を立て、新たに入院患者を受け入れることが求められる。また、様々な医療スタッフ（医師、看護師、理学療法士等）と関わるが多いため、状況に応じて臨機応変に対応できる資質（コミュニケーション能力含む）が必要。	まじめでコツコツと地道に仕事に取り組む卒業生が多く信頼感がある。ただ、それほど多くはないが、急性期病院における多忙な雰囲気になじめない学生もいる（本人の適性・希望等から同じ医療法人グループの精神科相談センタースタッフとして活躍しているケースもある）。	履歴書に表現されない情報も確認できるのであれば参考になると思われる。	特に、学生時代におけるスポーツ活動の経験、対人関係のアルバイト経験などが確認できる項目があると望ましい。
3	社会医療法人	「人の生死に関わることが多いこと」、「医療スタッフや患者の家族など様々な人から様々な要求を受けることが多いこと」、「急性期病院ということが多忙な医療現場であること」から、自分から声をあげ行動することができる主体性・コミュニケーション能力が必要。	気持ちがやさしく、長期に亘り地道に勤務する卒業生が多い。欲をいえば、もう少し積極性があるとよい。	履歴書、エントリーシートと重複する情報もあるが、自己申請ではなく第三者評価によるレポートということから、非常に参考になる。	学生の積極性・主体性を知ることができる（面接時に確認できるきっかけになるような）項目があるとよい。
4		自己管理能力（技術）を求める。すぐに何かに依存する人は、仕事を任せても苦勞する。自己の責任で実行する、実現していくという社会で仕事をする意味でも、自己管理能力が求められる。	良い点としては真面目で誠実である。大学の置かれる環境や地域性もあると思うが、他大学の卒業生と比較してもその印象は強い。一方、悪い点を挙げるとすれば、受け身の人が多い。	参考にしたい。ただし、教員のコメントなど、人の評価は好み（好き嫌い）等により内容が変わってくるため、選考の際に正しく評価することは難しいと感じる。人格に寄らない部分については、参考にしたい。選考の際には、実習先や科目（専門科目や基礎学力を確認するための一般教養科目の履修状況）を確認したりしている。特に基礎学力の部分は今後の成長の土台になるため、そういう部分を見ることがある。	（左記に含めて記述）

No.	インタビュー先	採用側として、新卒学生一般に対して一番求める資質	勤務に際して、本学出身学生に何か特段の傾向があるか。(積極的評価、否定的評価)	就職活動で学生が「学修到達レポート」を提出した場合、採用活動時に参考にするか。	この学修到達レポートに盛り込んだほうがよい項目、内容があるか。
5	社会福祉法人	仕事に関する知識(専門性)やスキルは、入職後に時間をかけて身に付けるものである。そのため、新卒学生には、職員や利用者の方とコミュニケーションを図り、良い関係性を築くことができそうか、また一人でできる仕事はないため、協調性をもって働くことができそうかが重要である。	積極的評価: 事務作業等の裏方の業務も積極的にこなしている。業務の適応力が高い。 否定的評価: 特に感じない。	参考にしたい。 大学が把握している客観的な情報として、採用の参考になる。	仕事に対する適性が分かるとよい。その学生がどういう仕事に向いているといった担当教員の主観的な評価でも問題ない。
6		コミュニケーション力。 お客様と関わる中で不可欠な力。また、仕事は一人でするのではなく、周りと協力しながら進めることが求められる。人に教わる、聞くなどのコミュニケーション力は全ての仕事を行う上で基礎となる力だと考える。	ホスピタリティ精神を持ち、人と関わるのが上手であると感じる。	参考になる。就職活動生に提出させる書類は基本的な項目が多く、情報量が多いとは言えない。学修到達レポートでは、その学生を様々な視点で評価されており、選考試験における補完資料となる。ただし、大学時代の成績はあまり参考にしない。人物を重視する。	課外活動等の項目では、活動名だけでなく、学生がその中でどのような役割や立場で何を行ってきたのか、活動内容がもう少し詳細に記載されているとよい。
7		対人の仕事も多いためコミュニケーション力や協調性なども必要だと思うが、行動する力を持っていて欲しい。	特段の傾向などの印象はないが、支店長として活躍している卒業生も多く、また、最近入社した学生は上司からの評価がとても高いとの報告がある。全体的にホスピタリティ精神を持っているかもしれない。	提出されれば参考にする。学修到達レポートのみでの評価はしないが、(良い意味でも悪い意味でも)選考の際に参考にすることはあるかもしれない。	適性検査の項目の中に「バイタリティ」等が分かる項目があると良い。現レポートはよくある結果だが、バイタリティなどは就職後の力としても必要になってくる。
8	民間企業	入社後一年は店舗での業務を経験し、その後は渉外(営業)を担当する。多種多様な金融商品に関する知識を身に付けるには、受身の姿勢ではなく、様々な業務に自ら取り組む姿勢が必要であり、かつ渉外活動を担当するにあたり、まずは積極性が必要。	まじめで実直なイメージ。本年度内定学生に関しては、こうしたイメージに加えて積極性も確認できたので採用した。	定量的な部分を中心とした全般的な状況が一目で確認できる点で参考になる。また、卒業に向けた状況(取得単位数等)が確認できるのもよい。	入社後の勤務状況から、面接を中心に積極性・意欲・コミュニケーション能力を確認する採用方法が適切であると判断し、以前は実施していた適性検査をとりやめ面接のみとしている。 こうした経緯もあり、積極性や対人能力が確認できる項目・記入欄があるとよい。
9		どのような仕事に対しても諦めることなく、求められる役割を何とかやり抜くことができる粘り強さ。コミュニケーション能力も優先度は高いが、土台に粘り強さのような資質がないと厳しい。	卒業生個々により特徴は異なるが、全般的に良い意味でおおらかで素直な学生が多い。一方で、大学の立地・環境の影響があるのかもしれないが、少し社会経験が乏しい印象を受ける。	履歴書に表現されない部分が確認できる可能性があるという点で参考になる。	成績・資格・スキル等の定量的な項目以外に、アルバイト経験、ボランティア経験、留学経験等の定性的な状況がより具体的にわかるような内容になるとよい。
10		コミュニケーション力。 会社は1人では回らないため、個々の学力や専門性も大切だが、まずは同僚とのコミュニケーションや協力して取り組むことが大切である。最初は先輩社員の業務を見て覚えることが成長する第一歩だと考える。	仕事に対して真面目に取り組む傾向が見受けられる。しかし、内向的な面があるため、もっと積極的に取り組むことで自信につながると考える。	参考にしたい。	修得単位数〇単位/総修得単位数〇単位と表記されるとよい。 可能であれば、不得意な面も載っていると参考になる。

日本福祉大学 学修到達レポート

1.基本情報

氏名 日福 太郎 氏名カナ ニップク タロウ

学籍番号 13FF0001

学部 社会福祉学部 学科 社会福祉学科

入学年度 2013年度

2.正課活動の成果

総修得単位数 150 単位

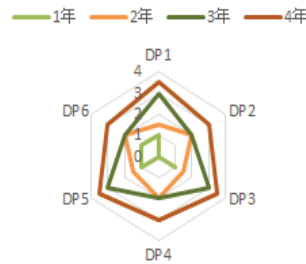
卒業論文テーマ 地域福祉における自治体の役割

取得（見込）資格 社会福祉士
英検2級

GPA 2.5

DPごとのGPA

	1年	2年	3年	4年
DP1	1.52	2.11	1.87	1.79
DP2	2.14	1.87	1.79	2.11
DP3	2.53	2.11	1.87	1.52
DP4	3.22	2.53	2.11	1.87
DP5	2.15	2.11	1.87	1.52
DP6	2.78	2.53	2.11	2.11



社会福祉学部 社会福祉学科のディプロマポリシー

- DP1 社会福祉にかかわる政策と実践及びその両者が連関するシステムを、社会福祉を支える価値や規範とともに理解し、社会福祉の実践に活かすことができる。
- DP2 現代社会に生きる人々が抱えている生活問題を、社会全体とのかかわりの中で理解し、問題解決に向けた実践に活かすことができる。
- DP3 様々な角度から物事を捉え、総合的に判断するための幅広い教養を備えた市民として行動することができる。
- DP4 社会福祉の学びの上に立って、職業人（企業人・教員を含む）として必要となる知識を備えて活動することができる。
- DP5 社会福祉に係る諸機関との連携、社会資源の調整、新たな社会資源の開発を通じて問題を解決する方法を判断することができる。
- DP6 地域に生じている問題を発見し、その解決に向けて新たな地域社会を開発するための方法を思考することができる。

3.正課外活動の成果

所属サークル 落語研究会

ボランティア 災害ボランティアセンター

特記事項 全日本学生落語選手権 入選

4. ジェネリックスキル・語学力

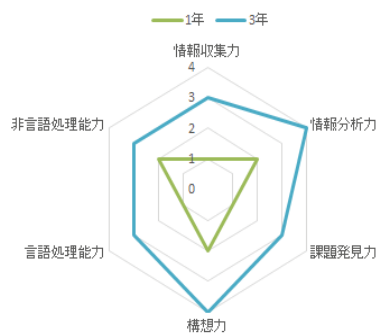
コンピテンシースコア

	1年	3年
対人基礎力	4	3
対自己基礎力	3	2
対課題基礎力	2	1



リテラシースコア

	1年	3年
情報収集力	2	3
情報分析力	4	3
課題発見力	2	2
構想力	4	1
言語処理能力	3	2
非言語処理能力		



語学力

英検2級
ドイツ語検定試験B1

4. 総評

入学当初から積極的に正課内活動、正課外活動に取り組む姿勢が感じられ、それが結果となっていると思います。ゼミではクラスに対して非常に難しい課題を課しましたが、クラスのリーダーとして課題を一つずつ、確実にクリアしていく様子は特筆に値し、今後社会に出た際に大きな強みになるはずで

担当教員 福祉 花子

発行日 2017年11月1日

学長 児玉 善郎

日本福祉
大学